

| 平成 26 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス | | | | | |
|---|---|---|--|----------|--|
| 教科目名 | 建築設備 | 担当教員 | 中谷岳史 | | |
| 学年学科 | 5 年 建築学科 | 後期 | 選択 | 1 単位(学修) | |
| 学習・教育目標 | (D - 3 環境系、エネルギー系) 1 0 0 % JABEE 基準 1 (1) : (d) | | | | |
| 授業の目標と期待される効果： 建築物における設備の中で、給排水や空調・電気設備システムの仕組みや構成を理解することを目的とし、さらに実務における設備計画の手法を理解する。具体的には以下の項目を目標とする。 1) 給排水・衛生設備及び給湯設備の理解 2) 水関連配管設計手順の習得 3) ガス設備の理解 4) 防災設備の理解 | | 成績評価の方法： 定期試験 100% とし、総得点率によって評価する。 なお成績評価に教室外学修の内容は含まれる。 達成度評価の基準： 一級建築士問題や教科書の演習問題と同等のレベルの課題及び試験を行い、下記レベルまで達していること。なお成績評価への重みは、1) が 40%、2) ~ 4) を各 20% とする。 1) 給排水、衛生設備及び給湯設備のシステムに関する説明がほぼ正確(6 割以上)にできる。 2) 給排水関連の配管設計手順を習得しており、活用することがほぼ正確(6 割以上)にできる。 3) ガス設備に関して説明することがほぼ正確(6 割以上)にできる。 4) 防災設備に関して説明することが、ほぼ正確(6 割以上)にできる。 | | | |
| 授業の進め方とアドバイス： 教科書の写真や図では理解しにくい設備はスライドなどによって前半紹介する。これらをきちんと見て概要を理解しておくことが、その後の講義を理解する上で重要となる。また、日常生活において関連設備に常に触れることが可能なため、意識して生活することが理解の早道となる。 | | | | | |
| 教科書および参考書： 教科書：最新建築設備工学（田中俊六監修、井上書院） 資料：建築環境工学用教材 設備編（日本建築学会編、丸善） | | | | | |
| 授業の概要と予定： | | | 教室外学修 | | |
| 第 1 回：給排水・衛生設備（システムの種類と構成 1） | | | 教科書に記載されている、身の回りの給排水・衛生設備について調べる。 | | |
| 第 2 回：給排水・衛生設備（システムの種類と構成 2） | | | | | |
| 第 3 回：給排水・衛生設備（システムの種類と構成 3） | | | | | |
| 第 4 回：給排水・衛生設備（システムの種類と構成 4） | | | | | |
| 第 5 回：給排水・衛生設備（システムの種類と構成 5） | | | | | |
| 第 6 回：給排水・衛生設備（問題演習 1） | | | 授業時間内でも演習の時間をもうけているが、十分ではないため教室外においても演習にとりくむこと | | |
| 第 7 回：給排水・衛生設備（問題演習 2） | | | | | |
| 第 8 回：給排水・衛生設備（問題演習 3） | | | | | |
| 第 9 回：ガス設備（システムの種類と構成 1） | | | 教科書に記載されている、身の回りのガス設備について調べる。 | | |
| 第 10 回：ガス設備（システムの種類と構成 2） | | | | | |
| 第 11 回：ガス設備（問題演習 1） | | | 授業時間内でも演習の時間をもうけているが、十分ではないため教室外においても演習にとりくむこと | | |
| 第 12 回：防災設備（システムの種類と構成 1） | | | | | |
| 第 13 回：防災設備（システムの種類と構成 2） | | | 教科書に記載されている、身の回りの防災設備について調べる | | |
| 第 14 回：防災設備（問題演習 1） | | | | | |
| 第 15 回：防災設備（問題演習 2） | | | | | |
| 期末試験 | | | | | |
| 第 16 回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など） | | | 期末試験の内容を振り返ること。 | | |